

JAL被解雇者労働組合（JAL 争議団）

6月16日

info@jhu-wing.main.jp<https://jhu-wing.main.jp/>

党派を超え国会議員 21 名

JALに争議解決を求める！

国会議員の代表 2 名が JAL 本社に要請

★福田昭夫衆議院議員（立憲民主党）

（左から3番目）

★高橋千鶴子衆議院議員（日本共産党）

（左から1番目）



「長引く JAL 争議解決のために、JAL 本社への要請をしたい」との福田議員のお声かけに対し、超党派の国会議員 20 名が賛同されました。6月16日、国会開会中でお忙しい中、福田議員と高橋議員が、JAL 本社を訪れ要請をして下さいました。JAL 側は会議室を用意せず、役員の出席もなく、人財戦略部のグループ長と窓口の女性に対応しました。尚、参議院ではこの日、重要法案の採決のため、参議院議員の方々はご出席できませんでした。

福田議員の発言

- 日本を代表する企業として人権を大事にする経営をして下さい。
- 大晦日に解雇、こんな辛い話はない。それから 13 年、これは労働問題ではなく、人権問題になっている。人としての血が流れているならこの問題を解決すべき。人財戦略部なら人を大事に育てないといけない。
- JAL にジャスティスの気持があるなら、組合としっかり話し合い、要求を受け入れて、解決するのが皆さんの道ではないか。社長からコメントを頂きたい。

高橋議員の発言

- 与野党の議員が一緒になって解決したいと名前を連ねてくれた重みを理解頂きたい。空の安全を預かる乗務員がどれだけ大事に分かるからこそ賛同している。
- JAL がこの争議を解決すれば、国際的に相当な影響力がある。
- 人員不足で大変なはず。安全が問われる問題。解決は人財管理として大事なことだと意見を上げて頂きたい。

人財戦略部 労務グループ長の発言

今日正式に要請があったことは承りました。社長はじめ役員に伝える。団体交渉で話しているので、ここで先生方に何かを伝えることは控えたい。



（代表議員と組合員）

（裏面「要請書」）



日本航空は早期に争議の解決を

貴社は、政府主導の下、2010年(平成22年)1月に経営破綻、更生計画に基づき再建が進められてきました。同年12月31日、更生計画が終了する2011年3月末日を待つことなく、パイロット81名と客室乗務員84名が整理解雇され、争議が13年も続いています。誠に遺憾に堪えません。

当時会長であった故稲盛和夫氏が報道陣を前に「経営上解雇の必要はなかった」との報道がありました。この発言は重く、165名の整理解雇に疑問を持たせるものです。二つの裁判で争われ、また4度に亙りILO勧告が出され、現在も東京都労働委員会で争われている事態は、もはや人権にもかかわる問題です。

そもそも、技術と経験が求められる飛行機の運航で、ベテラン乗務員を優先して解雇するやり方は、安全軽視と言わざるを得ません。また、貴社は再建以降にパイロット477名、客室乗務員6325名を採用していると聞き及んでおります。ところが、被解雇者を一人も乗務職に復帰をさせていません。これは国際労働基準にも背くもので、グローバル企業として真摯な対応とは言えません。

労使紛争が長引くことは、現場で働く社員のモチベーションにも悪影響を及ぼすだけでなく、利用者への心理的影響も否定できません。貴社は、我が国航空業界の範たる立場にあります。貴社が正常な航空会社として再スタートするためには、争議を解決させて名実ともに利用者国民からの信頼を取り戻すことが不可欠です。

以上

<賛同人>

衆議院議員	江崎 鐵磨	参議院議員	川田 龍平
衆議院議員	小宮山 泰子	参議院議員	福島 みずほ
衆議院議員	山本 ともひろ	参議院議員	芳賀 道也
衆議院議員	高橋 千鶴子	参議院議員	高良 鉄美
衆議院議員	穀田 恵二	参議院議員	永江 孝子
衆議院議員	松木 謙公	参議院議員	田村 智子
衆議院議員	宮本 徹	参議院議員	山添 拓
衆議院議員	早稲田 ゆき	参議院議員	大椿 ゆう子
衆議院議員	落合 貴之		
衆議院議員	下条 みつ		
衆議院議員	塩川 鉄也		
衆議院議員	石破 茂		